

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23531281

研究課題名(和文)成人期発達障害者の生涯学習支援システムの構築に関する研究

研究課題名(英文)Construction of life-long learning support system for individuals with intellectual and developmental disabilities in adult

研究代表者

菅野 敦(KANNO, ATSUSHI)

東京学芸大学・教育実践研究支援センター・教授

研究者番号：10211187

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、知的発達障害者が学習内容に取り組む際に自ら活動するためには論理的思考の獲得が必要であること、取り組まれている学習内容と学習ニーズには差異が生じており、今後「コミュニケーション」「自己管理」に関する内容に取り組む必要があることが明らかになった。に関して、申請者が主宰する知的発達障害者の生涯学習支援の取り組みであるオープンカレッジ東京にて、論理的思考の獲得をめざし、プログラムを開発・適用し、受講生の受講後の変容より一定の効果が見られた。今後は明らかになった成人期発達障害者の学習ニーズを踏まえ、多くの地域で活用できる、より汎用性のある「生涯学習支援システム」を開発する必要性がある。

研究成果の概要(英文)：This study clarified the need to acquire the logical thinking abilities to act themselves where individuals with intellectual and developmental disabilities get involved in life-long learning, and the need to include contents of "communication skill" "self-managing" in the future for making a difference contents of learning and learning needs of them. In "Open College Tokyo" we developed the life-long learning support program. This program are intended to acquire the logical thinking abilities Through applying this program, the learner with intellectual and developmental disabilities addressed challenges properly, and, after this program was over, the learners were promoted to acquire the logical thinking abilities. But, we couldn't develop the model of general "life-long learning support system" because of paucity to apply this program. In the future, we will apply this program include contents of "Marriage" "Geography" "Self-Realization" continually.

研究分野：知的発達障害心理学

キーワード：知的発達障害 成人期 生涯学習 生涯学習支援システム 学習ニーズ 学習プログラム

1. 研究開始当初の背景

2006年の教育基本法の改正では第3条「生涯学習の理念」が新設され、生涯学習の振興の必要性が述べられている。障害児・者教育においても、2014年に批准した障害者の権利に関する条約第24条に生涯学習の保障が規定された。従来、成人期発達障害者を対象とした生涯学習支援の取り組みは、障害者青年学級等が挙げられ、近年では大学公開講座(オープンカレッジ)が開始された。しかし、成人期発達障害者の生涯学習支援の場の十分な保障には至っていない。

このような現状の中で、申請者は成人期発達障害者を対象とした大学講座、オープンカレッジ東京を主宰している。オープンカレッジ東京ではこの間、様々な学習内容に取り組んできた。そうした実践は継続的に学会発表を行い、研究成果を報告するとともに学習内容や学習方法、そして学習した内容の評価を含む生涯学習支援プログラムの作成を今後の課題として挙げてきた。さらに、各機関が連携し、より地域に根ざした生涯学習支援システムの構築の必要性も挙げている。

2. 研究の目的

本研究(「成人期発達障害者の生涯学習支援システムの構築に関する研究」)は近年注目されている成人期発達障害者の生涯学習について、実態調査等に基づき、生涯学習支援プログラムを作成し、その有効性の検証を行う。さらに、各関係機関との連携から生涯学習支援システムの構築を目的とする。具体的には以下の4つの研究よりなる。

1) 成人期発達障害者の生涯学習支援で取り組まれている学習内容の実施傾向を明らかにするために、成人期発達障害者に生涯学習支援を実施している4支援機関(障害者青年学級、特別支援学校の卒業支援、大学オープンカレッジ、障害福祉サービス事業所)を対象に、取り組まれている学習内容(活動内容)の調査を行う。2) 学習内容と基礎的学習能力との関係を明らかにするために、成人期発達障害者を対象に、研究1で明らかになった成人期支援機関で最も取り組まれている学習内容に含まれる学習活動と学習者の基礎的学習能力に関する項目を配したチェックリストを作成し、調査を行う。3) 研究1、2で得られた知見を基に、生涯学習支援プログラムを作成し、申請者の主宰する成人期発達障害者の生涯学習支援の取り組みであるオープンカレッジ東京にて適用し、受講生の変容を明らかにする。4) 成人期発達障害者の学習ニーズを明らかにするために、成人期発達障害者の相談支援を行う、全国の指定一般・特定障害者相談支援事業所等を対象に調査を行う。

3. 研究の方法

研究1: 調査対象: 障害者青年学級 54ヶ所、知的障害特別支援学校 333ヶ所、オーブ

ンカレッジ 15ヶ所、障害福祉サービス事業所 628ヶ所、計 1030ヶ所である。調査内容: 成人期発達障害者の生涯学習支援に関する先行研究より作成した学習内容 10項目(「行事的な活動」「文化・芸術活動」「スポーツ・運動的な活動」「読み書き計算の学習活動」「社会的な知識や情報に関する活動」「自己管理に関する活動」「生活技能に関する活動」「コミュニケーションスキルに関する活動」「地域の人との交流活動」「その他の活動」)である。調査方法: 郵送による質問紙の送付、回収により行った。回収率: 45.5%。分析: 各成人期支援機関の学習内容の実施率を算出する。

研究2: 調査対象: 成人期発達障害者 181名(平均年齢 29.5歳、平均精神年齢 4.5歳)である。調査内容: 研究1で最も取り組まれている学習内容に含まれる学習活動に関する項目及び学習者の基礎的学習能力に関する項目を配したチェックリストである。調査方法: 対象となる成人期発達障害者の支援者に回答を依頼する。分析: 学習活動に関する項目より「学習活動領域」、基礎的学習能力に関する項目より「基礎的学習領域」をそれぞれ統計的手法の一つである多変量解析により、抽出する。その後、領域間の関連を統計的に分析する。

研究3: 対象者: オープンカレッジ東京の受講生である。生涯学習支援プログラム: 研究2の結果を踏まえ、「論理的思考のプロセス(予測・比較・分類・考察)」に基づく「地理講座」「科学講座」を作成、適用した。調査内容: 論理的思考の獲得を検証するため、「論理的思考:用語概念理解アンケート」を開発し、講座終了直後及び3ヶ月後に実施した。分析: 講座及び3ヶ月後の調査に参加した受講生 17名を分析対象とし、講座終了直後及び3ヶ月後に実施した「論理的思考:用語概念理解アンケート」の正答率を算出、比較する。

研究4: 調査対象: 全国の指定一般・特定障害者相談支援事業所等 4159ヶ所である。調査内容: 調査対象先が記入時において、直近に相談を受けた相談内容3件である。調査方法: 郵送による質問紙の送付、回収により行った。記入者は相談支援事業担当者に依頼した。回収率: 1065ヶ所(25.6%)。分析: 研究1で調査項目として用いた学習内容を参考に、成人期発達障害者の相談内容から学習ニーズが含まれる内容を抽出、その割合を算出する。

4. 研究成果

研究1: 各成人期支援機関の学習内容の実施率を算出した。障害者青年学級は、「行事的な活動」の実施率が最も高く、次いで「スポーツ・運動的な活動」「文化・芸術活動」「生活技能に関する活動」が高かった。特別支援学校の卒業支援は、「行事的な活動」の実施率が最も高く、次いで「文化・芸術活動」

「スポーツ・運動的な活動」「地域の人との交流活動」が高かった。オープンカレッジは、「社会的な知識や情報に関する活動」の実施率が最も高く、次いで「文化・芸術活動」「スポーツ・運動的な活動」「自己管理に関する活動」が高かった。障害福祉サービス事業所は、特別支援学校の卒業後支援と同様に「行事的な活動」の実施率が最も高く、次いで「文化・芸術活動」「スポーツ・運動的な活動」「地域の人との交流活動」が高かった。以上より、多くの成人期支援機関では「行事的な活動」に取り組んでいることが明らかとなった。

研究2：主な結果として、研究1より、成人期支援機関で最も取り組まれていた「行事的な活動」に含まれる学習活動に関する項目から、「地域資源の活用」「規則の遵守」「好みに沿った選択」「自発的文化活動」「移動」の5つの「学習活動領域」を抽出した。基礎的学習能力に関する項目から、「基礎的な類別概念」「文字・数・時間概念」「論理的思考」の3つの「基礎的学習領域」を抽出した。

「学習活動領域」と「基礎的学習領域」との関連を見たところ、「基礎的な類別概念」領域は「地域資源の活用」「規則の遵守」「好みに沿った選択」「移動」という4領域と、「論理的思考」領域は「地域資源の活用」及び「好みに沿った選択」領域と有意な関連があった。以上より、発達障害者が学習内容に取り組む際に、自ら活動するためには「論理的思考」領域の獲得、その前段階の「基礎的学習領域」である「基礎的な類別概念」領域と「文字・数・時間概念」領域の獲得が必要であることが明らかになった。

研究3：論理的思考法の獲得をめざし、論理的思考法を「予測」「比較」「分類」「考察」というプロセスに分け、プロセスに沿って活動を展開することで獲得を目指すプログラムを作成した。作成した「地理講座」のプログラムは、醤油を題材とし、活動は論理的思考のプロセスに基づき、「予測＝講師講義を基に、4種類の醤油の種類を予測する」「比較＝味・色・においという視点で比較する」「分類＝比較した内容を表にまとめる」「考察＝まとめた表から、醤油の種類を特定する」とした。講座終了後及び3ヶ月後に実施した「論理的思考：用語概念理解アンケート」の分析より、用語概念の定着を見たところ、講座終了後から「予測」「比較」「考察」のプロセスは半数以上の正答率が見られ、3ヶ月後の正答率も変化が少なかったものの、「分類」のプロセスは終了後及び3ヶ月後も正答率が低かった。以上より、論理的思考のプロセスに基づく講座を作成、適用し、概念理解を測定したところ、半数以上の発達障害者が論理的思考のプロセスを理解していたが、一部正答率の低いプロセスもあり、今後改善する必要性が明らかになった。

研究4：主な結果として、「コミュニケーションスキルに関する活動」への学習ニーズ

が最も多く、次いで「社会的な知識や情報に関する活動（主に就労）」「生活技能に関する活動」「自己管理に関する活動」が多かった。

研究1より、成人期支援機関では「行事的な活動」「文化・芸術活動」「スポーツ・運動的な活動」の実施率が高かったものの、相談支援事業所への相談内容から見た学習ニーズでは挙げられなかった。以上より、学習ニーズと実施している学習内容には差異が生じている可能性が明らかになった。

以上より、本研究では以下の4点が明らかになった。生涯学習支援を実施する成人期支援機関では、「行事的な活動」「文化・芸術活動」「スポーツ・運動的な活動」などの学習内容の実施率が高いこと、発達障害者が学習内容に取り組む際に自ら活動するためには論理的思考の獲得が必要であること、論理的思考のプロセスに基づく生涯学習支援プログラムを適用することで、発達障害者はある程度論理的思考の概念を理解できるようになること、取り組まれている学習内容と学習ニーズには差異が生じており、今後「コミュニケーション」「就労」「自己管理」に関する内容に取り組む必要があることが明らかになった。

今後の課題として、論理的思考のプロセスのさらなる検証、学習ニーズを踏まえた生涯学習支援プログラムの開発が挙げられる。また、本研究では実践数の少なさから、多くの地域で活用できる、より汎用性のある「生涯学習支援システム」を開発には至らなかった。今後取り組む必要があると言える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

菅野敦(2014)知的障害者のための生涯学習支援. 発達障害研究, 36(3), 233-245.

烏雲畢力格・今枝史雄・菅野敦(2013)成人期知的障害者の生涯学習支援における「学習の目的」に関する研究-実施主体や実践の"ねらい"との関係を通して-. 東京学芸大学教育実践研究支援センター紀要, 9, 99-112.

<http://hdl.handle.net/2309/134425>

烏雲畢力格・今枝史雄・菅野敦(2013)成人期知的障害者の生涯学習支援の"ねらい"に関する研究-障害者青年学級・特別支援学校(青年学級・同窓会)・オープンカレッジにおける実態調査を通して-. 東京学芸大学紀要. 総合教育科学系, 64, 327-340. <http://hdl.handle.net/2309/132673>

烏雲畢力格・今枝史雄・菅野敦(2012)成人期知的障害者の生涯学習支援に関する研究-オープンカレッジ東京を中心とした比較・縦断的検討を通して-. 東京学芸大学紀要. 総合教育科学系, 63, 277-293. <http://hdl.handle.net/2309/127937>

[学会発表](計 34 件)

今枝史雄・萱野敦・吉澤洋人・加藤宏昭・川住隆一,成人期知的障害者の生涯学習支援() - 論理的思考のプロセスの提案と今後の講座展開 -, 日本特殊教育学会(日本・高知) 2014.9.22.

今枝史雄・澤本佳江・萱野敦,オープンカレッジ'13「いっしょに学び、ともに生きる」活動発表会 まとめと検証() - 知的障害者が再学習場面で活用する学習方法について -, 日本特殊教育学会(日本・高知) 2014.9.20.

岡村亜希子・萱野敦・鍋内美芳,オープンカレッジ'13「いっしょに学び、ともに生きる」第5回講座「書道でショー」まとめと検証 - 話し合い活動と評価の検討 -, 日本特殊教育学会(日本・高知) 2014.9.20.

川西邦子・吉澤洋人・萱野敦,オープンカレッジ'13「いっしょに学び、ともに生きる」第0回講座「ディスカバーJAPAN」まとめと検証 - 出汁を題材とした比較の「学習方法」の学び -, 日本特殊教育学会(日本・高知) 2014.9.20.

大沼健司・島田博祐・春口明朗・萱野敦,成人期知的障害者のための公開講座「10年後の自分の夢を実現するために～生活領域を考える～」, 日本特殊教育学会(日本・高知) 2014.9.20.

加藤宏昭・城田和晃・萱野敦,成人期知的障害者のための公開講座「心理学実験～錯視～」 - 受講生の学びのまとめと検証 -, 日本特殊教育学会(日本・高知) 2014.9.20.

平井威・萩原怜奈・島田博祐・萱野敦,成人期知的障害者のための公開講座「レッツダンス」 - 知的障害者と学生の共同の学びを検証する(2) -, 日本特殊教育学会(日本・高知) 2014.9.20.

今枝史雄・伊藤浩・萱野敦,成人期知的障害者の生涯学習支援に関する研究() - 相談支援事業所への相談内容と成人期支援機関で実施されている学習内容との比較を通して -, 日本発達障害学会(日本・宮城) 2014.8.23.

澤本佳江・今枝史雄・萱野敦,オープンカレッジ'12「いっしょに学び、ともに生きる9」まとめと検証(3) - 活動発表会における点数化を用いた「比較」の活動を通して -, 日本特殊教育学会(日本・東京) 2013.9.1.

加藤宏昭・城田和晃・萱野敦,オープンカレッジ'12「いっしょに学び、ともに生きる」まとめと検証() - 第2回講座「サイエンスラボ」における、プラスチックを題材とした「予測」に焦点を当てた学び -, 日本特殊教育学会(日本・東京) 2013.9.1.

川西邦子・吉澤洋人・萱野敦,オープンカレッジ'12「いっしょに学び、ともに生きる9」まとめと検証(1) - 「ディスカバーJAPAN 5」における醤油を題材とした比較の「学習方法」の学び -, 日本特殊教育学

会(日本・東京) 2013.9.1.

平井威・大沼健司・久保田真未・島田博祐・萱野敦,成人期知的障害者と学生の共同の学びにおける展開の工夫 - オープンカレッジ東京「キャリアをデザインする」の講座から -, 日本特殊教育学会(日本・東京) 2013.8.31.

今枝史雄・萱野敦,成人期知的障害者の生涯学習支援に関する研究(7) - 相談内容に関するアンケートの分析を通して -, 日本特殊教育学会(日本・東京) 2013.8.31.

平井威・吉澤洋人・川西邦子・萱野敦・椿真智子,知的障害者と市民の生涯学習～オープンカレッジ東京 in 明星大学～ディスカバーJAPAN「だし」, 日本特殊教育学会(日本・東京) 2013.8.31.

平井威・松矢勝宏・萱野敦・加藤博史・松永公隆・赤石珠実・藤原章,成人期知的障害者の大学における生涯学習支援, 日本特殊教育学会(日本・東京) 2013.8.31.

今枝史雄・萱野敦・加藤宏昭・吉澤洋人・澤本佳江・水内豊和,成人期知的障害者の生涯学習支援() - 論理的思考を育む講座展開の実践を通して -, 日本特殊教育学会(日本・東京) 2013.8.30.

今枝史雄・萱野敦,成人期知的障害者の生涯学習支援に関する研究() 学習者の「支援課題」とライフステージとの関係について -, 日本発達障害支援システム学会(日本・東京) 2012.12.16.

菊池直樹・今枝史雄・加藤宏昭・吉澤洋人・萱野敦,成人期知的障害者の生涯学習支援 - 論理的思考に基づいた講座展開の実践を通して -, 日本特殊教育学会(日本・茨城) 2012.9.30.

前川涼・萱野敦,成人期知的障害者の学習・余暇に関する調査研究 - 生活適応支援チェックリストの継続的な活用を通じて -, 日本特殊教育学会(日本・茨城) 2012.9.30.

烏雲畢力格・今枝史雄・萱野敦,成人期知的障害者の生涯学習支援に関する文献研究 - 先行研究の年推移と研究方法に関する比較検討を通して -, 日本特殊教育学会(日本・茨城) 2012.9.29.

②1 今枝史雄・萱野敦,成人期知的障害者における生涯学習支援に関する研究() - 教育機関が抱える課題と学習者のライフステージとの関係について -, 日本特殊教育学会(日本・茨城) 2012.9.29.

②2 菊池直樹・萱野敦,成人期知的障害者の生涯学習支援 - 論理的思考に基づいたオープンカレッジ東京「活動発表会」を通して -, 日本特殊教育学会(日本・茨城) 2012.9.28.

②3 川西邦子・吉澤洋人・萱野敦,成人期知的障害者の生涯学習支援 - オープンカレッジ東京「ディスカバーJAPAN」砂糖・お酒を題材とした比較の「学習方法」の学びから -, 日本特殊教育学会(日本・茨城)

2012.9.28.

- ②4 城田和晃・加藤宏昭・菅野敦,成人期知的障害者の生涯学習支援 - オープンカレッジ東京「きょうからあなたも科学者に」を通して -, 日本特殊教育学会(日本・茨城) 2012.9.28.
- ②5 烏雲畢力格・今枝史雄・菅野敦,オープンカレッジの“ねらい”に関する研究 - 障害者青年学級と特別支援学校との比較検討を通して -, 日本発達障害学会(日本・神奈川) 2012.8.12.
- ②6 加藤宏昭・菅野敦,オープンカレッジ'11における科学講座の実践報告 - 「いっしょに学び、ともに生きる」の成果と課題 -, 日本発達障害支援システム学会(日本・東京) 2011.12.18.
- ②7 烏雲畢力格・菅野敦,成人期知的障害者の生涯学習支援に関する検討 - オープンカレッジ東京の学習領域の変遷を通して -, 日本発達障害支援システム学会(日本・東京) 2011.12.18.
- ②8 今枝史雄・菅野敦,成人期知的障害者の生涯学習支援に関する研究() 教育機関が抱える課題の特徴について -, 日本発達障害支援システム学会(日本・東京) 2011.12.18.
- ②9 吉澤洋人・今枝史雄・菅野敦,オープンカレッジ東京'10「いっしょに学び、ともに生きる」第4回講座「ディスカバーJAPAN」まとめと検証 - 雑煮を題材とした比べる「学習方法」の学び -, 日本特殊教育学会(日本・青森) 2011.9.25.
- ③0 平井威・加藤宏昭・菅野敦,オープンカレッジ東京'10「いっしょに学び、ともに生きる」第3回講座「犯罪科学捜査」まとめと検証, 日本特殊教育学会(日本・青森) 2011.9.25.
- ③1 小泉浩一・平井威・島田博祐・菅野敦,オープンカレッジ東京'10「いっしょに学び、ともに生きる」第1回講座「レッツダンス」まとめと検証 - 体力差に応じたダンス講座の在り方を検証する -, 日本特殊教育学会(日本・青森) 2011.9.25.
- ③2 菊池直樹・烏雲畢力格・菅野敦,成人期知的障害者の生涯学習を支援する学習方法の検証() - 「予測・比較・分類・結果・考察」の学習方法を用いたオープンカレッジ東京 2010 活動発表会を通して -, 日本特殊教育学会(日本・青森) 2011.9.25.
- ③3 前川涼・菅野敦,成人期知的障害者の学習に関する調査研究 - 精神年齢と読書年齢、語い年齢と視知覚能力の差と事例研究について -, 日本特殊教育学会(日本・青森) 2011.9.23.
- ③4 今枝史雄・小笠原まちこ・菅野敦,成人期知的障害者の生涯学習を支援する学習方法の検証() - 「予測・比較・分類・結果・考察」の学習方法を用いた携帯電話講座の実践を通して -, 日本特殊教育学会(日本・青森) 2011.9.23.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菅野 敦 (KANNO Atsushi)

東京学芸大学・教育実践研究支援センター・教授

研究者番号：10211187